

平成 2 5 年度第 2 回社会教育委員会議会会議録							
開催日	平成 2 6 年 3 月 1 4 日（金）			開会時間		1 3 時 1 5 分	
会 場	市役所 4 階 4 0 1 会議室			閉会時間		1 4 時 4 5 分	
委員の 出欠 状況	加藤 浩	欠	加藤 聡司	出	磯崎 茂	欠	
	鈴木 直幸	出	木村 聡子	欠	五十嵐 裕子	出	
	小田原紀慧子	出	川崎 みち子	出	坂本 真人	出	
	○鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	出			
	村山 喜三江	出	長田 真希	欠			
	戸部 恵一	出	◎ 大谷 鐵子	出	◎議長 ○副議長		
傍聴者	なし						
事務局	【教育委員会】大久保教育長、上篠教育部長 【生涯学習課】富岡次長、亀井課長補佐、細野統括主査、吉澤主事 渡辺主事 【スポーツ青少年課】鈴木課長補佐、中蔦統括主査						
議 題	1 平成 2 5 年度事業中間報告及び平成 2 6 年度事業計画案について 2 社会教育推進に関する意見交換について 【テーマ】「学習成果を生かす循環型生涯学習の推進」について 3 その他						

1 開会

2 あいさつ

○大久保教育長

子どもたちの生きる力を育む上で、学校・家庭・地域住民によるそれぞれの役割と責任において、子どもの教育に積極的に関わるとともに、連携・協力を進めることで、よりよい教育環境を作り出すことができると思っている。

学校・家庭が有する教育力は、地域の有する教育力と強い関係性を持っている。

近年、地域の教育力の低下が指摘されている。さまざまな教育課題に直面する中で、今こそ地域住民の皆様の関わりが問われているかと思う。課題解決のためには、地域課題に基づく、学校・家庭・地域住民の連携・協力が不可欠だと思う。また、活動を担う人づくりも大きな課題。特に、社会教育を通して、地域の中にそういった人づくりを進めているが、まだまだ課題が山積している。

さまざまな角度からご協議いただき、本市の社会教育の充実に生かしていければよいと思う。

○事務局

市民参加条例第 1 2 条第 4 項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3 議題

(1) 平成25年度事業中間報告及び平成26年度事業計画案について

○事務局

資料「平成25年度事業中間報告及び平成26年度事業計画案」に基づき説明。

○戸部委員

生涯学習課生涯学習事業の中で、現地歴史講座は、定員40名であるが資料1の中間報告では、参加者が67名であるが違いがあるのか。

○事務局

この講座は、全2回を開催しており、資料1の参加者は延べ67名であった。資料に「延べ」が抜けていたので、訂正をお願いしたい。

○村山委員

スポーツ青少年課青少年担当事業の中で、夏季スポーツ大会の開催にあたっては、非常に参加人数が少ないということもあり、和光市体育協会も一生懸命協力させていただいている。

競技種目については、以前は、ソフトバレーボール、ドッジボール、キックベースを開催。当初は、ソフトボールだったが、人数が集まらないということで、キックベースに変更した経緯がある。今年度は、気温が暑い、指導者もいない、子どもたちも率先して参加しないという状況もあり、ドッジボール1種目になってしまった。

夏季スポーツ大会当日は、大変盛り上がり、保護者も一生懸命応援している様子を見ることができた。少子化の時代で、参加者を増加させることは大変かと思うが、別々の学校の子どもたちが交流できる機会でもあるので、ぜひ種目を増やして欲しい。

キックベース開催会場は、第二中や広沢小の校庭を使用。兄弟児が参加する場合、インドアは総合体育館、アウトドアは学校の校庭というように、会場が離れてしまうと保護者が行き辛く、参加を躊躇してしまう。芝生が痛んでしまうかもしれないが、できれば、総合体育館の芝生の部分を1～2面会場として確保していただければ、更に盛り上がるかと思う。

体育協会では、一市民スポーツというスローガンを掲げており、市にも賛同してもらい目指しているので、開催種目を増やし、子どもたちがより参加したいと思えるような環境を整えてはどうか。

当初は、子どもたちがたくさん集まっていた頃もあったので、復活できるよう、引き続きご検討をお願いしたい。

○議長

以前は、三日間に渡り開催している時期もあった。そんなに参加者が減っているとは思わなかった。

○川崎委員

新設校建設や学校の教室が増え、子どもたちが増加しているという話も聞くが、外で遊ぶ子どもが減ったように思う。それは、親が面倒くさがり、外へ出なくなると同時に、子どもが外にでない状況になり、子ども同士が協力して参加するスポーツに広がっていかないのではと思う。

○鈴木委員

夏季スポーツ大会への参加は、学校の中でチームを作るわけではない。学校の役員や地域の方が、一生懸命、夏季スポーツ大会を開催しようと動いているが、それぞれの自治会・育成会の取り組み方や地域の保護者の意識の格差が出ている印象を受ける。例えば、白子地区では、マンションだけの地域ではチームが出てきていないと思う。

教育長の発言のように、学校・家庭・地域を結ぶ役割が社会教育委員であるが、社会教育委員だけでは難しい。文部科学省が発行している「わたしたちのまちの社会教育委員さん！」に掲載されている政令指定都市である新潟市長の掲載文に、「当初は希薄だった学校と地域を結びつけるため、新潟市は地域教育コーディネーターを小中学校に配置することにし、今年度で173校全てに配置を終えました。」との記載がある。

行政は縦割りであるため、それらの事業等を全て把握している人が、自治会や育成会を含め、学校・家庭・地域を結びつけることができるような役割が必要。

県内の他市では、学校・家庭・地域を結ぶ役割を市教育委員会が設置しているところもあれば、狭山市では、学校からの支援要請を受けたり、地域の方々からの問い合わせに総合的にバックアップする組織があるということを聞いたことがある。和光市でも、今後このような組織が必要になってくるのかもしれない。

○五十嵐委員

我が家には小学生と高校生の子どもの持つが、子どもたちからキックベースをしたと聞いたことがない。また、私自身もキックベースを見たことはあっても、体験したことがないまま大人になったので、そういった世代の親だと親子でキックベースとはどんなものか説明ができない。

生涯学習課では、放課後子ども教室を開催しており、先日、子どもが「ペタンク教室」に初めて参加した。ペタンクという名前を初めて聞いたが、ゲーム性があり、子どもからの感想では、結構楽しかったと聞いた。

今後は、放課後子ども教室などを活用し、子どもたちにキックベースなど、こういった遊びもあるよと伝えることで、さらに参加者が広がっていくのではと思う。

(2) 社会教育推進に関する意見交換「学習成果を生かす循環型生涯学習の推進」について

○鈴木委員

先ほど発言の補足として、学校・家庭・地域を結ぶ組織として、狭山市では市民大学を修了した方が、自分たちのノウハウを子どもたちに役立たせようということから始まった。和光市でも市民大学が開催されているので、今後、和光市にもこのような組織が求められてくるかもしれない。

○小田原委員

子どもたちのためにこれだけの講座があることを知ったが、知らない人も多いと思う。今後は、幼稚園にも積極的に教えていただき、子どもたちにも活用させていただければと思う。

子どもの数も少なくなり、子ども同士で地域で一緒に遊ぶという機会も少ないかと思う。最近では、幼稚園の頃から、塾、プール、ピアノ教室、英語に通い、親子共に、ものすごく忙しい印象を受け、子ども同士でゆっくり遊ぶ時間もない。

地域との繋がりとして、保護者にも幼稚園へ来ていただいた際、地域の方たちにいろいろと教えていただくと、繋がりが広がっていくかもしれない。

保護者同士は忙しいこともあり、人と人との繋がりが希薄になり、メールのやりとりで繋がっている部分もある。子どもたちにも少なからず影響を与えている部分があると思うので、地域にこういう人がいるということを知ることによって、地域に繋がりが広がっていくとよい。

○村山委員

和光市は、スポーツ活動できる施設が少ない。和光市と佐久市は、スポーツ交流をやっているが、佐久市は、体育館も充実しており、管理を地区に任せている。和光市は、やっと総合体育館ができた。先日、総合体育館で開催する教室をみると、非常に参加者が多かったが、活動する人がいつも同じで限られている。教室開催に当たっては、市民全体に周知できるとよい。

スポーツ施設を充実しても、交通アクセスが悪いと参加できない場合がある。課題はたくさんあるが、スポーツを元気に明るく、高齢者が楽しく過ごせる場所があるとよい。

体育協会としても、こういったことがやりたいというお話があれば、率先して協力し、一緒に汗を流せると思うので、スポーツ環境の整備を充実して欲しい。

○戸部委員

例えば、生涯学習課のおとどけ講座など、開催場所は申込み者が会場を設定するというのは、利用者には負担かと思う。公民館でも、サークル活動で使用した

くても、使用できなかったり、行政も含め、小学校の体育館や校庭についても、使えなかったりするのです、自由に使用できるようになって欲しい。学校の体育館や校庭の使用については、スポーツ少年団との関係もあるが、後から利用したくても利用できない状況を改善しなければならない。生涯学習を推進したい人がいても、環境が整っていなければ課題が出てきてしまう。

また、総合体育館の使用について、中学生が部活で使いたくても使用できないのは課題がある。学習成果を生かせる場を整備する必要がある。

○加藤委員

昔に比べて親が地域の活動に積極的に参加することが希薄になってきている。

私の親や私自身、地元ということもあり、比較的子どもたちや地域に目を配ることができた。現在、共働き世帯も多く、週末にようやく子どもたちと関わる唯一の時間であるにも関わらず、更に地域との関わりを持つとなると二の足を踏む方も多い。地域で生きていくため、地域活動に参加することは、その家庭にとってもよいことだと思う。

P T Aでは、地区役員や学校の役員に対し、総合的に協力させていただいている。また、社会教育委員の一員として、何か情報があれば、役員に情報提供をしている。

脆弱化している育成会や子ども会においても、P T Aが協力することも役割かと思う。今後も関係機関と連携し、協力していきたい。

○川崎委員

もともとP T A活動を行っていたという経緯から、民生委員として活動させてもらっている。未だに子どもたちに目がいくことが多い。以前は、P T Aの活動の中に、クラスの活動や学校全体の活動があり、家庭学習の場があった。その中で、親子で工作など体験学習を行う機会があった。そういった活動から、地域にそれらを持ち帰り、同じ遊びができたり、同じ会話をすることができた。

また、子育てを終えた世代は、多少時間の余裕があるかと思うので、そういった方を掘り起こし、サークル活動を通じて、地域と繋がっていくとよいかと思う。活動する場として、検討がつくと活動しやすくなるきっかけになると思うので、周知も必要かと思う。

○伊藤委員

和光市は、生涯学習指導者制度、おとどけ講座があるが、市民全体に周知が足りない。十分に周知されていれば、大事な子どもたちやお年寄りをお誘いしてという話ができるのではと思う。行政は、周知を徹底してもらいたい。

地域の力として、和光市は自治会加入率が市民半分を満たさず、県内で下位。市長は、盛んに自治会加入について周知しているが、和光市は急激な開発に伴い、新たな住民が増加し、いろいろな考え方を持っているので、自治会には加入しな

い方が多い。

最近では、子どもが被害にあう事件があるので、地域で手を取り合うためにも、自治会加入を促進している。しかし、自治会加入について、役所へ問合せをすると、自治会は任意団体なので、加入は強制ではないと職員から回答があると聞いている。再三、自治連と市で協議しているが、全く改善されない。近隣市では、自治会加入率70～80%というところもあり、転入時に、在住地区の自治会、自治会長、民生委員がいることをお知らせしていると聞いている。残念ながら和光市はやっていないので、改善してもらえると、和が広がっていき、地域を守っていけると思う。

○五十嵐委員

周知不足と開催場所を確保するのが問題。いろいろな講座があるので、対象についても間口を広げ、参加するきっかけづくりを提供して欲しい。

○坂本委員

各種講座の周知不足。市民へ情報が届いていないというもどかしさがある。講座を受講した感想、特に中学生や高校生の意見を伺いたい。

佐久市と和光市との交流については、ほとんどの人が知らないので、両市民共にさびしい印象を受ける。

生涯学習課では、以前は和光市についてのフィールドワークの講座があったが、ここ最近はない。総合福祉会館では、年1回程度、地域に昔から住んでる方に来ていただき、昔からの様子について、話を聞く機会がある。今後は、大和町から和光市にまつわる話が聞ける機会を提供していただきたい。人材登録制度もよいが、そういった話をできる方は登録していないので、そういった話をできる人に声を掛けていただき、講座を開催していただきたい。

○鳥飼副議長

詩吟の活動をしているが、文化を通じて、地域とのつながりができ、さまざまな活動を行っている。伝統文化の継承は、学校・地域とのつながりを持ちながらやっていきたい。

5 その他

- (1) 和光市社会教育委員設置条例の一部改正案の概要について
- (2) 今後のスケジュール

6 閉会